

2022年6月19日（日）主日朝礼拝説教

『その水をください』井上隆晶牧師

エゼキエル書 47 章 7～9 節、ヨハネ福音書 4 章 7～15 節

### ①【人間の本当の罪とは～神を求めようとせず、この世を求めること～】

イエス様はサマリアの町シカルにやってきました。そこには昔の族長ヤコブが掘った井戸がありました。昔から井戸は出会いの場でした。アブラハムの僕とリベカも、ヤコブとラケルも、モーセとチポラも皆、井戸で出会いました。人は水の回りに集まります。水がないと死ぬので、水は「命の象徴」です。そのヤコブの井戸の横にイエス様が座っていたのには意味があります。私にはイエス様がもう一つの井戸であるように見えます。人生には二つの井戸があります。ヤコブの井戸と、キリストという井戸です。人に本当の命を与えるのはこの世のものではなく、イエス様であるということをお教えているのです。旧約時代に預言者エレミヤを通して神はこう言われました。「まことに、わが民は二つの悪を行った。生ける水の源であるわたしを捨てて、無用の水溜を掘った。水をためることのできない、こわれた水溜めを。」（エレミヤ 2 : 13）旧約の民も生きた水源である神を捨てて、役に立たないこの世の物を選んだのです。

さて正午ごろ、イエス様は旅に疲れ井戸のそばに座っていました。そこに一人のサマリアの婦人が水を汲みに来ました。伝承では名前を「フォティニア」といい、後に伝道者になり殉教したと伝えられています。水汲みは普通は涼しい朝に行います。井戸端には多くの婦人が集まり、挨拶をしたり、話をしたりします。しかし彼女はその婦人たちの輪に入りたくありませんでした。それは不道德な生活を送っていたからです。彼女は人目を避けて生活し、誰にも会わない様に真昼に水を汲みに来たのです。イエス様は喉が渇いていたので婦人に「水を飲ませて下さい」と頼みました。井戸には桶がなく、村人は自分で桶を持ってきました。乾燥地帯では水は貴重な財産であり水をめぐる争いもありましたから、他人には汲めないようにしてあったからです。婦人は見知らぬ旅人が自分に声をかけてきたことに警戒します。「ユダヤ人のあなたがサマリア人の女の私にどうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」（9 節）ユダヤ人とサマリア人は仲が悪く、交際することがありません。イエス様は彼女にいいました。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また『水を飲ませて下さい』と言ったのが誰であるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」（10 節）「もしあなたが私が誰であるかを知り、私を与えるものがどれだけ素晴らしいかを知っていたら、あなたの方から私に頼むだろうに」と言われたのです。この言葉は彼女だけでなく全ての人に言われているのです。私たちキリスト教徒は自分が礼拝している方が誰であるか知っているのでしょうか。その方が下さる恵みがどれほど豊かであるか知っているのでしょうか？もし知っているならば

っと交わり、もっと求めているはずでしょう。この世の物は熱心に求めても、神のものは求めようとしません。これが私たちの本当の罪なのです。罪とは私たちが何かの過ちを犯すことであるよりも、神キリストが分からず、その賜物を求めないことです。生き方全体がキリストにではなく、この世にに向かってのことです。そこで私たちが求めようとしないので、キリストの方から声をかけ、手を差し伸べているのです。

## ②【イエス様こそまことの井戸】

婦人はイエス様にいます。「あなたは汲む物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。あなたは、私たちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸を私たちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」(11～12節) 今まで私たちはこのヤコブの井戸の水を飲んできたのです。それよりも良い水があるというのですか。あなたは汲む物を持っていないし、一体どこからそんな水を手に入れることが出来るのですか、と彼女は言ったのです。「井戸は深いのです」という言葉は、「自分の苦悩は深いのです」という意味と共に、「聖書は奥が深く、とても理解することはできないのです。」というようにも聞こえます。ヤコブは旧約聖書から、わずかの教えと約束を汲み取り、それを家族に与えてきました。でも安心してください。イエス様は目には見えない汲む道具を持っています。それは聖霊という道具です。イエス様は聖書から聖霊で教えを汲みます。人々はイエス様の教えを聞いたとき非常に驚きこいきました。「この人は学問をしたわけでもないのに、どうして聖書をこんなによく知っているのだろう。」(ヨハネ7:15)「今まで、あの人のように話した人は人はいません」(ヨハネ7:46) そうです、この方はまことの井戸であって、自分の中からまことの命を与え、あなたを喜びで満たすことがお出来になれます。

## ③【永遠の命に至る水】

イエス様は婦人にいます。「この水を飲む者はだれでもまた渴く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水が湧き出る。」(14節)最初に言ったように、この世には二つの水があります。一つはこの地上から湧き出る水であり、もう一つはキリストが与える水です。この世の水は肉体を一時的に癒すことはできますが、キリストが与える水はその人を永遠に癒すことが出来ます。サマリアの婦人はこの世の水をもっていました、天の水を持っていませんでした。一方、イエス様はこの世の水を持っていませんでしたが、天の水は満ち満ちていました。イエス様は私と交換をしようと言われるのです。そのキリストが与える水とは「聖霊」のことです。「わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水が湧き出る。」という言葉をかみしめてみましょう。聖霊が入ると、その人の内で泉となり、永遠の

命である神へとその人を導いてくれます。私の長野県にある実家は河岸段丘の上  
にあり、周りには田んぼや畑があります。川は一番低い平野に流れているので、  
丘にある田畑に水を引くことはできません。でも丘の中腹に、いくつかの湧き泉  
があります。湧水とってバカにしてはなりません。そこではものすごい量の新  
鮮な水が湧き出ている、その泉に落ちたら死んでしまうほどの量です。それが  
用水路となって田畑に配られます。それと同じように、神の湧水が心に入ると、  
抑えきれない喜びが湧き出てきますし、聖書の教えを際限なく教えてくれるので  
す。それはお腹の底から湧いてきて私たちの心の中にある恨みや怒りや恐れや寂  
しきや闇のような感情をすべて飲み込み、赦しと愛と平和と勇気を与えます。そ  
れが私たちの中に充満するので、あたかもその人は地上にいても、天国にいるよ  
うに感じるのです。

●19 世紀の聖セラフィームが友人モトヴィローフと交わした会話が残っていま  
す。モトヴィローフが「私の中にすばらしい静けさと平安を感じますので、言葉  
で言い表すことが出来ません。…心の隅まであふれんばかりの喜びです。…」と  
いうと、聖セラフィームはこういいました。「神の霊が人の上に降り、あふれる力  
が人を覆い尽くす時、人の魂は言い尽くせない喜びに満たされるでしょう。神の  
霊は触れる者いっさいを喜びに変えるからです。…この天国の前触れを味わうだ  
けで、心がこれほどの喜びに満たされるなら、天国で待っている喜びは何と表現  
したらいいでしょう。」

このセラフィームの言葉は嘘ではありません。聖霊に触れられると一瞬でその人  
は喜びに溢れますし、その喜びがあまりにもすごいので、天国に行ったら耐えら  
れないと思ってしまうのです。ある人の例をお話ししましょう。

●三人の娘を残してこの世を去ってゆかねばならなかった母親がいました。若く  
して夫を病で失ってから娘たちのために必死に仕事と家事をこなしてきたのに、  
末期と宣言されたのです。その母親の友人の紹介で晴佐久神父は病室を訪れまし  
た。…ぼくは彼女の手を握り、まっすぐに目を見つめていった。「今日、ここに私  
を遣わしたのは神です。神はあなたを愛しているからです。…神の子であるあな  
たは死にません。永遠の命を生きるのです。…」三十分ほどの話だが、彼女の顔  
が目の前でみるみるうちに輝き出した。それは劇的としかない変わり方だった。  
…初めて彼女の目から涙が溢れでた。一週間後、本人のたつての希望で洗礼式を  
行った。…洗礼の水をかけられた彼女は、娘たちを見つめながら明るい声で繰り  
返した。「お母さん、うれしい。本当に、うれしい。！」三週間後、彼女は亡くな  
った。安らかな最期だった。告別式で長女が挨拶した。「母は洗礼で救われました。  
洗礼式の時、母の顔は本当に輝いていました。母の人生において、あんなに明る  
い顔を見たことはありません。」

これこそ聖霊の泉が与える喜びです。死を前にしても「うれしい」と言える。す  
ごいことです。あなたもこのようになりたくありませんか？真の井戸であるキリ

ストは今日もあなたの横におられ、聖霊という神の湧水を与えようとしています。主は無償で与えたいと思っておられるのです。このサマリアの婦人を見て勇気を出してください。私など汚れているから貰えない、私など信仰が弱いから聖霊は来てくれないと思っはなりません。私の感情ではなく、主の思いを知ることです。主は、罪の中にあつたこの婦人にも与えようとされたのです。後は私たちがどうしても欲しいと思うかどうかだけなのです。このサマリアの婦人に倣い、私達も勇気を出して「**その水をください**」と祈りましょう。